

不整脈の根治治療を開始

10月には不整脈センター開設

不整脈は脈が異常に速くなる「頻脈」と、脈が遅くなる「除脈」に分類される。高周波カテーテルアブレーション治療は、頻脈の心房細動や発作性上室性頻拍など不整脈の多くをカバーする。

同治療は先端部分から高周波(電流)を発する専用のカテーテル(細い管)を、大腿の付け根から挿入。心臓内に誘導し、不整脈の発生源となっている部位に高周波をあて、約60度の熱で病巣を焼灼(焼き切る)する。薬物療法で効果が得られない患者さんや根治を希望する患者さんに実施する。

中部病院が同治療を開始したのは、同院循環器内科の大城力部長が今年5月に入職したことによる。大城部長はこれま

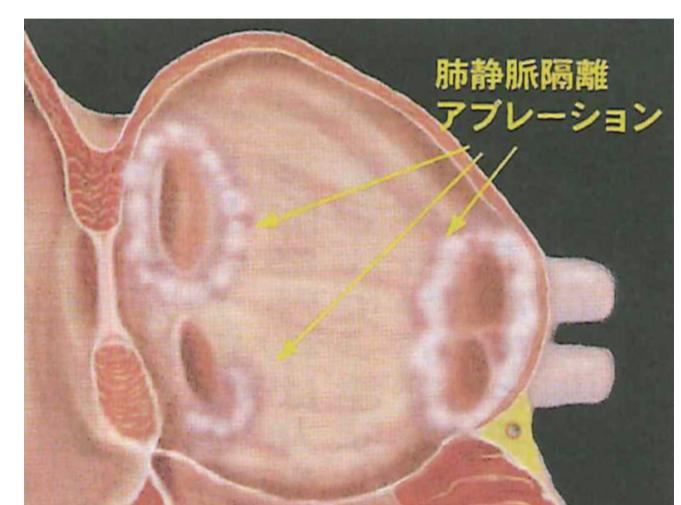


「心房細動などの不整脈の根治に貢献していきます」と大城部長

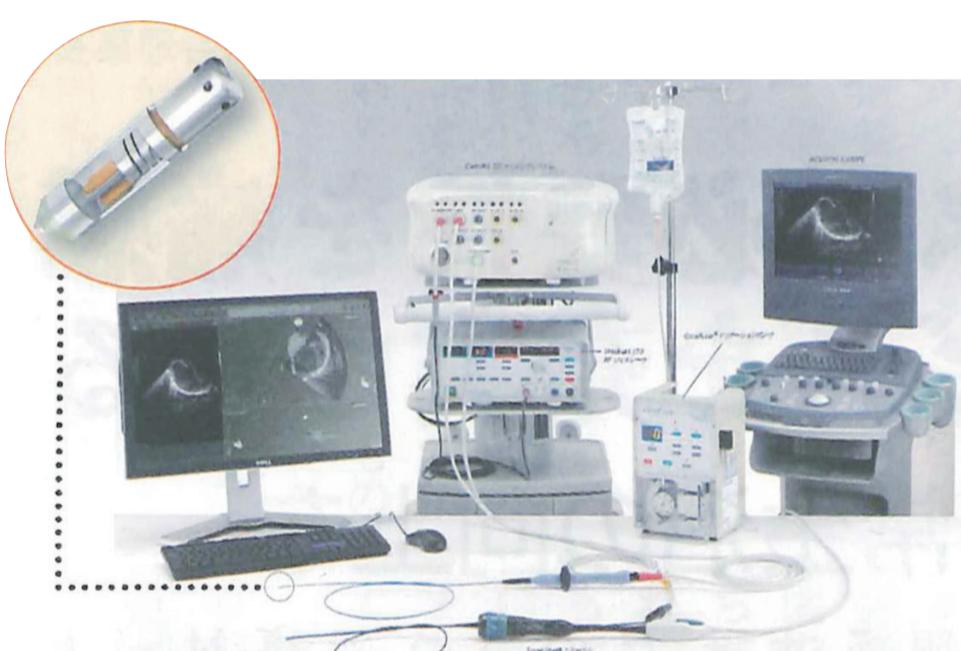
中部徳洲会病院(沖縄県)はこのほど、不整脈の根治治療法である高周波カテーテルアブレーション治療(心筋焼灼術)を開始した。県内の医療機関では初となる最新の機器を導入、10月には不整脈センターを開設する予定だ。不整脈の一種で主な治療対象となる心房細動は、脳梗塞や心不全を引き起こす恐れがあるだけに、患者さんにとって朗報といえよう。

で、多数の同治療を全国有数の症例数をもつ医療機関で手がけてきた。

不整脈で最も多いのが心房細動。患者さんは国内に100万人いると見られている。進行性の疾患で、発症初期の発作性から持続性、慢性の心房細動へ病態は徐々に悪化し、根治が難しくなる。症状は動悸や息切れ、胸苦しさ、胸の圧迫感



心房細動の心筋焼灼術では肺静脈を円周状に焼灼(イメージ図)



導入した最新カテーテルアブレーション装置
(左上の先端部分で心筋との接触情報を読み取る)

など。慢性化するとこれらの自覚症状はなくなることが多い。

大城部長は「心房細動は早期発見早期治療がとても重要です。心房細動そのもので命を落とすことはありませんが、放置すると脳梗塞や心不全といった恐ろしい合併症のリスクが高まります。自覚症状が現れた時点で、医療機関を受診することをお勧めします」と強調する。

心房細動は、全身を巡った血液が戻ってくる心房(心臓の上室のこと)で、左心房と右心房がある)内で、異常に多くの電気信号が発生し、心房が痙攣状態となって起こる不整脈。心臓のポンプ機能が失われ心房内に血液がどこおり、血栓(血の塊)が生じやすくなる。この血栓が脳血管に飛びこむとで脳梗塞が引き起こさ

れる。

従来、不整脈の治療は薬物療法が中心だったが、薬物療法では再発することが多く根治できない。そこで近年、心筋焼灼術が注目されている。「発作性の心房細動であれば患者さんの約8割は1回の心筋焼灼術で根治が可能です。2回目も合わせれば計9割の方が根治しています」(大城部長)

ほとんどの心房細動は、左心房から出ている4本の肺静脈の根元付近の心筋が発生源とわかっている。このため治療では、それぞれの肺静脈の根元付近を円周状に焼灼し、左心房に電気信号が伝わらないように隔離する。治療時間は1回約2~3時間で、術後2~3日で退院できる。

不整脈治療の開始にあわせて、同院は専用の治療装置と最新鋭のカテーテルを導入した。これは、心筋に接触した時にかかる圧力などを数値化できる焼灼用のカテーテル。県内の医療機関では初の導入でより安全で早く確実な治療に寄与する。

大城部長は「心房細動は根治できる可能性の高い疾患になりました。積極的に治療に取り組み、当院のある地域を県内で最も心原性の脳梗塞による死亡数が少ない地域にすることが目標です。10月には当院に不整脈センターを立ち上げる計画があります。後進の育成にも力を注いでいきたいと考えています」と意気込みを見せる。

同院の伊波潔院長は「患者さんの数が多い疾患のため、不整脈の治療には以前から取り組みたいと考えていました。これからも、より幅広い疾患に対応できるよう診療機能の向上を図り、地域に貢献していく」と抱負を語っている。

注目の心筋焼灼術